



体育大会に向けた応援練習で、元気よく応援歌を歌う黒組の児童＝16日、鯖江市惜陰小

鯖江・惜陰小 体育大会

応援歌 歌い継ぎ90年

鯖江市惜陰小で1935（昭和10）年ごろに作られた体育大会の色別応援歌が約90年間、歌い継がれている。県内で珍しいという黒組をはじめ、赤、白、緑組の4曲があり、仲間を鼓舞するそれぞれの歌を応援合戦で披露するのが伝統。今年の体育大会は24日に開催予定。本番が近づくと、児童の応援練習は熱を帯びている。

（竹内史幸）

惜陰小によると、黒など四つの色分けは、大相撲の土俵の4本柱（現在の房）にちなんでいるとされ、古代中国の四神獣に由来するとの説もある。色別の応援歌は35年ごろ、当時の田中幸教諭が作詞した。2番まであり、歌詞も曲も異なる。十人十色の個性を發揮し、競い合いながら共に成長することを願って作られたという。16日、休み時間に校内で行われた応援練習では、各組が

応援歌を振り付きで歌った。赤組が「熱血燃えて 腕は鳴り 大地を駆ける 足軽し」と声をからせば、隣の黒組も負けじと「いざたて健児 くらがね健児」で始まる歌を元氣いっぱいの声で響かせた。黒組応援団長の田中陽莉さん（6年）は「黒組の応援歌はリズムがいい。90年も歌われているのはすごいと思う」と笑顔を見せた。

白組の応援歌は「白いはちまきぐっとしめ 目ざすほまれのフィニッシュ」と力強い歌い出し。緑組は「見ろよトラック トップの猛者を しめたはちまきや緑色」などの

歌詞で軽やかな曲調が特徴だ。練習では各組6年生が指導役になり、1～5年生に「ほかの組に負けない声で」「動作をもっと大きく」と呼びかけた。みんなが士気を高め、伝統の歌はしっかりと受け継がれている。

同校を卒業した富坂秀一校長（58）は「在校当時は住んでいる町内別に色分けされていた。応援歌は先輩から教わって覚えた」と懐かしそうに口ずさむ。「体育大会で児童の家族や地域の人たちが世代を超えて一緒に歌えるのも魅力。これからも歌い継いでくれば」と話していた。

黒・赤・白・緑、個性光る4曲 世代超え口ずさみ、魅力に

いざたて健児 くらがね健児
堅忍不拔の しるしはわれら
鎧袖一触 示すは黒ぞ一、二
トップをきって 勝ちどきあげん

熱血燃えて 腕は鳴り
大地を駆ける 足軽し
必勝の意気 天をつく
見よ赤、赤の旗じるし

白いはちまきぐっとしめ
目ざすほまれのフィニッシュ
スタートダッシュぐっとぬき
あげよ凱歌を 白、白、白

タタタタタタタタタ体育日和
胸にずんとくる緑のかおり
見ろよトラック トップの猛者を
しめたはちまきや緑色